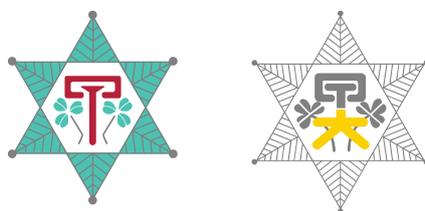


# 2019 年度事業報告



# 目次

I. 学校法人の概要	1
II. 2019年度の主要な取組み	5
1. 甲南女子学園創立100周年記念事業の推進	5
2. 国際学部の開設準備	5
3. 第4次中期計画	6
4. 大学ガバナンス改革	6
5. 新型コロナウイルス感染症対策	6
III. 大学・大学院	6
1. 教育体制	6
(1) 学部教育	6
(2) 大学院教育	7
(3) 学修支援	8
(4) FD・SD活動	9
(5) 国際交流の推進	10
(6) キャリア教育	11
2. 研究体制	13
(1) 学内の各種研究助成による研究支援	13
(2) その他の研究助成	13
3. 学生支援活動	13
(1) 学生生活支援	13
(2) キャリア支援	15
4. 学生募集	16
(1) 学生募集活動	16
(2) 広報活動	16
5. 環境整備	16
(1) キャンパスの整備	16
(2) 情報インフラ整備	17
6. 地域連携・社会貢献活動	17
(1) 地域連携・社会貢献活動の推進	17
(2) 産官学連携	18
(3) 高大連携	19
7. 管理運営	19
(1) 学園の管理運営体制	19
(2) 職員人事制度	19
(3) 労働環境の維持向上	19

IV. 中学校・高等学校	20
1. 教育課程	20
2. 授業力向上	20
3. 総合学習	20
4. 生徒指導	20
5. 国際交流	21
6. 進路指導	21
V. 財務の概要	23
1. 2019年度決算の状況	23
2. 財務状況の推移	30

## I . 学校法人の概要

学校法人甲南女子学園は、1920（大正9）年に甲南高等女学校創立以来、「まことの人間をつくる」を建学の精神とし、「清く 正しく 優しく 強く」を校訓として掲げると共に、「全人教育、個性尊重、自学創造」の教育方針を持ち、阪神間を代表する女子教育機関として、豊かな人間性を育みつつ、個性に応じた才能を伸ばす教育を実践してきた。

本学園は、甲南女子大学大学院（人文科学総合研究科・看護学研究科）、甲南女子大学（文学部・人間科学部・看護リハビリテーション学部・医療栄養学部）、甲南女子高等学校、甲南女子中学校で構成され、同窓生数は53,000名に達している。

### 1. 学生・生徒数等の推移（2019年5月1日現在）

（単位：名）

区 分	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
○学生在籍者数				
人文科学総合研究科	21	22	25	24
看護学研究科	8	11	20	24
文学部	1,608	1,625	1,635	1,639
人間科学部	1,785	1,774	1,797	1,883
看護リハビリテーション学部	707	687	667	669
医療栄養学部	—	—	81	158
計	4,129	4,119	4,225	4,397
○生徒在籍者数				
中学校	544	561	570	570
高等学校	528	531	515	518
計	1,072	1,092	1,085	1,088
○教職員数				
専任教職員	304	317	326	324
非常勤教職員	348	370	360	369
計	652	687	686	693



甲南女子大学の制服は開学当時のデザインを踏襲し、機能性を改良しています

## 2. 入学定員・収容定員・入学者数・在籍者数の概要（2019年5月1日現在）

（ ）内は編入学者数で入学者数の内数

学 科・専 攻	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
文 学 部				
日 本 語 日 本 文 化 学 科	80	101(1)	320	384
英 語 文 化 学 科	120	144(1)	480	572
多 文 化 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 学 科	70	83(1)	280	342
メ デ ィ ア 表 現 学 科	70	77	280	341
文学部 計	340	405(3)	1,360	1,639
人 間 科 学 部				
心 理 学 科	90	110(2)	360	442
総 合 子 ど も 学 科	150	178	600	658
文 化 社 会 学 科	80	110(1)	320	388
生 活 環 境 学 科	80	119(3)	320	395
人間科学部 計	400	517(6)	1,600	1,883
看 護 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 学 部				
看 護 学 科	100	116	400	423
理 学 療 法 学 科	60	60	240	246
看護リハビリテーション学部 計	160	176	640	669
医 療 栄 養 学 部				
医 療 栄 養 学 科	80	78	320	158
医療栄養学部 計	80	78	320	158
甲南女子大学 合計	980	1,176(9)	3,920	4,349
大 学 院 人 文 科 学 総 合 研 究 科 博 士 前 期 課 程				
言 語 ・ 文 学 専 攻	9	0	18	1
心 理 ・ 教 育 学 専 攻	13	8	26	18
社 会 ・ 文 化 環 境 学 専 攻	9	2	18	3
博士前期課程 計	31	10	62	22
大 学 院 人 文 科 学 総 合 研 究 科 博 士 後 期 課 程				
言 語 ・ 文 学 専 攻	3	0	9	0
心 理 ・ 教 育 学 専 攻	3	0	9	1
社 会 ・ 文 化 環 境 学 専 攻	3	0	9	1
博士後期課程 計	9	0	27	2
大学院人文科学総合研究科 計	40	10	89	24
大 学 院 看 護 学 研 究 科 博 士 前 期 課 程				
看護学専攻	5	1	10	16
大 学 院 看 護 学 研 究 科 博 士 後 期 課 程				
看護学専攻	3	3	9	8
大学院看護学研究科 計	8	4	19	24
大学院 合計	48	14	108	48
甲 南 女 子 中 学 校 ・ 高 等 学 校				
甲 南 女 子 中 学 校	180	190	540	570
甲 南 女 子 高 等 学 校	180	179	540	518
甲南女子中学校・高等学校 計	360	369	1,080	1,088

3. 学園役員・評議員

(2020年3月31日現在)

役員	
理事長	中 内 仁
副理事長	森 下 榮 生
常務理事	下 村 雅 一
理事	森 田 勝 昭
理事	岡 田 明
理事	馬 場 伸 彦
理事	原 田 隆 司
理事	秋 元 典 子
理事	宇 佐 美 眞
理事	竹 井 誠
理事	近 藤 三 津 枝
理事	奈 良 山 和 子
理事	青 井 さ ゆ き
理事	吉 沢 英 成
理事	小 西 新 太 郎
理事	角 和 夫
理事	宮 原 秀 夫
理事	平 山 一 哉
理事	樽 本 和 美
監事	杉 本 康
監事	阿 部 奈 穂 子

評議員	
森 田 浩 一	中 内 仁
松 村 俊 和	森 下 榮 生
間 瀬 教 史	下 村 雅 一
寺 尾 純 二	小 西 新 太 郎
深 澤 貞 信	平 山 一 哉
松 本 正 子	樽 本 和 美
後 田 尚 宏	吉 沢 英 成
森 未 貴	角 和 夫
森 田 勝 昭	宮 原 秀 夫
岡 田 明	近 藤 三 津 枝
馬 場 伸 彦	平 生 誠 三
原 田 隆 司	石 岡 佑 佳 美
秋 元 典 子	俵 正 市
宇 佐 美 眞	明 石 巧
竹 井 誠	井 関 和 宏
奈 良 山 和 子	新 川 康
青 井 さ ゆ き	大 川 剛
高 嶋 知 永 子	力 武 良 行
玉 手 の り 子	林 希
柳 井 容 司 子	清 田 雅 美

理 事	19名
監 事	2名
評議員	40名



## Ⅱ. 2019年度の主要な取組み

### 1. 甲南女子学園創立100周年記念事業の推進

創立100周年（2020年11月27日）に向けて、様々な記念事業・ブランディングを推進

#### 〔学園創立100周年記念事業〕

- 歴史的建造物申請事業  
中学・高等学校校舎等が登録有形文化財へ登録  
（管理棟・特別棟・体育館・体育研究室・講堂・守衛室）
- 名門大学との協定  
・韓国1校（梨花女子大学）、アメリカ3校（オレゴン大学、カリフォルニア州立大学サンマルコス校、カリフォルニア州立大学ロングビーチ校）との連携を推進
- 修学支援事業  
・現4年生による後輩ピアサポートを実施  
・甲南女子大学奨学金の拡充
- 100周年記念式典  
・記念式典・祝賀会の内容、コンテンツを検討
- 周年記念事業募金（2019年12月末現在：180,833,577円）
- 学園施設の整備  
・大学正門整備について2020年秋頃完成を目指し推進中  
・清友園全面改修について2020年秋頃完成を目指し推進中  
・甲南女子中高グラウンドの人工芝化を完了  
・甲南女子中高の第1特別棟の大規模改修工事を完了
- その他  
・百年に想いを馳せた甲南女子中高第二校歌が完成  
・100周年記念デザイン補助バック（株式会社ファミリア製）発表

#### 〔ブランディング〕

- 100周年ブランディングサイトの公開完了
- 現役学生×社会・企業連携プロジェクト  
・卒業生が経営する株式会社チャイナロードジャパン  
（ショコラリパブリック：洋菓子店、北野）との連携等を開始
- デザイン  
・芦原講堂の線画ポスター完成  
・学園コミュニケーションマークを制定  
・大学マスコットキャラクターを公募の上、決定
- その他  
・県立美術館での浮世絵展開催が決定（2020/10/31～12/6）  
・学園と清友会による「100周年記念メッセージ」実施決定



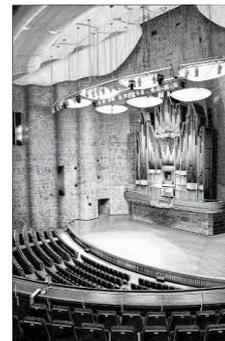
登録有形文化財への登録



大学正門イメージ図



中高グラウンドの人工芝化



芦原講堂の線画ポスター



株式会社チャイナロードジャパン  
（ショコラリパブリック）との連携商品



コミュニケーションマーク



大学マスコットキャラクター

### 2. 国際学部の開設準備

- 海外の留学先の新規開拓を実施
- 国際学部の留学プログラムや奨学金制度等の留学制度の整備を実施
- 国内外のフィールドワークやインターンシップ等のプログラムの整備を実施
- 入学定員190名に対して総志願者数は1,624名となり、開設に向けて順調な滑り出し



紹介カタログ

### 3. 第4次中期計画

第4次中期計画（2018～2020年度）の2年目を推進

- 最重要指標：大学における学生成長実感度 79.4%、高等学校・中学校における学校生活満足度 85.2%
- 重要指標：大学志願者数が前年比 105%、中学校志願者数が前年比 97.5%
- 学生の基礎力・思考力・実践力を伸ばす取り組みを各学科で実施するとともに、その先にある「未来への実践力」を具体化する取り組みも開始

### 4. 大学ガバナンス改革

学長の業績評価制度を制定

- 甲南女子大学学長業績評価規程の制定が理事会（2020.3.17）にて承認
- 大学の課題及び課題への取組状況を明らかにし、次期学長候補者選考の際に参考となる意見を徴することを目的とする制度とした
- 大学運営全般、教育研究、中期計画、管理運営等に関して、学長の自己評価書を基に総合的に評価していく

### 5. 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症に対する危機管理

- リスクマネジメント委員会を立ち上げ、留学生の緊急帰国、教職員の時差出勤等の対策を実施
- 学生、教職員に対する感染防止の注意喚起（手洗い、マスク着用、換気等）
- 中高は臨時休校、大学も登学禁止措置をとり、学位記授与式、各種行事、イベント等を中止

## Ⅲ. 大学・大学院

### 1. 教育体制

#### (1) 学部教育

##### ①文学部

学生が学びを通じて獲得できる成果を重視し、教育内容の改善を推進

- すべての学科においてアクティブ・ラーニング※1を奨励、主体的な学ぶ姿勢と国際的・社会的視野の獲得を目標に、教育の質的充実を促進
- 英語文化学科及び多文化コミュニケーション学科では、2020年開設の国際学部への準備として、カリキュラムの試験的運用、教育環境の改善を実施
- メディア表現学科では、クリエイティブラボの開設に向けた第一弾としてデスクトップPCからノートブックPCへ変更、フレキシブルな学習環境づくりを開始
- 日本語日本文化学科では、宝塚歌劇講座を継続、講演内容を冊子として編集し、教育と広報に活用

##### ②人間科学部

各学科において、第4次中期計画の年度ごとの目標を明確化し、課題として実践

[心理学科]

- 国家資格「公認心理師」の受験資格取得に繋がるカリキュラムの実施と、実習のサポート実践
- 独自の就学サポートシステムによるきめ細かい指導・教育の推進
- CBT等の導入による学習効率の向上
- AI分析等による学修状況を診断するためのシステム開発と実践

[総合子ども学科]

- 教員養成課程の学科としてのカリキュラムの整備と充実
- 保育士や教員免許の取得ならびにキャリアモデル獲得に向けての取り組みの推進
- リニューアル2年目を迎えた「子ども室」の運営体制の整備と実践
- 子ども図書館、里山体験や学習農園、総合子どもカーニバル等、社会貢献につながる教育実践

#### [文化社会学科]

- 学生の自主性やコミュニケーション能力を高めるフィールドワーク学習の充実
- 多彩な外部講師との連携による、社会ならびに社会学への関心や積極的学習意欲の喚起
- 社会学関連文献・図書の収集による教育研究基盤整備の推進
- SNSによる学科情報、学修成果発信に用いる素材の収集・蓄積と発信の開始

#### [生活環境学科]

- 基礎学力の向上に向けたオリジナルプログラムの運用開始
- 履修系統図の作成・提示による学科の学修目標、学習の流れの可視化作業の推進
- 外部連携事業（食品開発、スポーツボランティア、環境教育、自然環境学習など）の、より一層の推進
- 学科としての事業「生活環境フェスティバル」「シェフとの集い」「里地里山体験」の充実

### ③看護リハビリテーション学部

学部全体としては、多職種連携教育（IPE：Inter - professional education）を推進するために、2019年度第一回目は看護学科・理学療法学科・神戸薬科大学で合同演習を実施

#### [看護学科]

- シミュレーションを活用した演習やアクティブ・ラーニングの充実により看護実践力修得を促進  
今後も教員の専門分野を越えた協働的演習展開を継続的に実施予定
- 国際力強化のための豪州・英国へのスタディツアーは次年度を予定

#### [理学療法学科]

- 甲南医療センターはじめ臨床実習指導強化施設の利用により実習内容の充実を図り、ウィメンズヘルスやスポーツリハビリに関する広報を行うとともに教育の充実を実施
- 『理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則』が改正されたことを受け、改正内容に沿ったカリキュラム改正に取り組み、文部科学省より承認された  
今後は新カリキュラムによる教育活動に取り組み、さらなる教育の充実を推進

### ④医療栄養学部

#### [医療栄養学科]

- 学生一人ひとりへの指導として、専門科目に対して中間テスト・小テスト・特別講義を実施
- 早期体験授業の取り組みとして、医療施設及び給食施設の見学実習を実施
- 国家試験対策として、国家試験過去問題の自己採点及び解説を行い、関連する実力テストを実施
- 体系的なカリキュラムの理解促進を目的に、学部内FD活動を実施

(※1) アクティブ・ラーニング：「学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る」学修（能動的学修）のこと。具体的には、発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワークなどをいう。

## (2) 大学院教育

---

### ①人文科学総合研究科

- 大学院生研究室の移動に伴い、学びやすい環境づくりを推進
- 日本語日本文学コースではカリキュラム内容の見直しを開始
- 臨床心理学コースでは「公認心理師」の実験・実習環境の整備充実を実施

### ② 看護学研究科

#### [博士前期課程]

- 6名に修士（看護学）を授与  
・引きつづき、きめ細かな指導をすることで、豊かな人間性と倫理観を兼ね備えた質の高い教育・研究者ならび

に高度な看護実践者の育成を継続

[博士後期課程]

- 看護学教育の質向上に貢献できる看護教育者、及び自律（自立）した看護研究者、看護管理者の育成
  - ・豊富な専門的学識・グローバルな視点と高度な教育能力・研究能力の向上
  - ・院生・教員ともに博士論文作成およびその指導に邁進
  - ・研究計画書審査および中間報告会を実施
- 博士前期課程・後期課程の一貫性が担保できるよう、専攻分野を見直し、完成年度を迎えたのちに実施を予定

### (3) 学修支援

#### ①カリキュラム体系

成長実感教育実現に向けたカリキュラムの体系化及び学修成果の可視化

- 体系的な学びを提供するため、4つの学士力を反映させたカリキュラムマップ※2及びナンバリングを整備
- 2019年度入学生を対象として学修成果の可視化システム「みらいパス」の運用を開始
- カリキュラムツリーによる体系化の明示を検討
- 学生による学習等の記録や教員によるフィードバックなど、伴走方式教育のために「みらいパス」のさらなる活用を検討



みらいパスイメージ

(※2) カリキュラム・マップ:学部の専門科目とディプロマ・ポリシー（学位授与方針）の相関関係を示す表のこと

#### ②アセスメント・テストの活用

- アセスメント・テストで得たエビデンス等から学習成果の明確化を実践する方策として、BI ツール※3の導入を決定し、クロス集計等により、成績、進路、入試区分等、学生に関する各種のデータとの相関性の分析を行う準備を実施
- 現行のアセスメント・テスト（PROG）の成果について、各学科におけるこれまでの活用事例を集約

(※3) BI ツール: データを多次元分析や統計解析等で処理し、直観的、視覚的にまとめるツール

#### ③コモンルーム

教職員は、学生に寄り添いながら、学習習熟度の向上を図り、学生が主体的に活動することを支援

- 学生が、安心・安全・快適に過ごせるように女性の健康支援を実施し、また、学科の学びの支援としてパソコンの入れ替えやソフトの導入等の環境整備を実施
- 学生の満足度やニーズについてのアンケートを実施し、コモンルームの運営に反映
- 2020年度開設の国際英語学科及び多文化コミュニケーション学科の専門教育と連動した学びの場となるようにコモンルームを整備

#### ④教育イノベーションプロジェクト

- 3年目となる今年度は学部学科横断的なもの、教職協同で行うもの等本学の教育力を高めるための11件のプロジェクトを展開
- 学生との学外活動、システム構築、講演会等を実施



ニュースレター



プロジェクト講演会

■ 2019 年度 採択プロジェクト一覧

	プロジェクト名
1	学生主体による学科・組織横断型アカデミック・イベント創出プロジェクト
2	産官学連携の地域創生健診事業による学生教育
3	甲南女子大学の女性教育の今後を考えるプロジェクト
4	学習管理システム(LMS)の全学的活用の仕組みづくり
5	女子大学における「リスク」教育と「リスクマネジメント」
6	自学教育を通じた新たなブランディング
7	学生の意欲喚起プロジェクト～しなやか強さって何？
8	学部を超えた医療専門職業人育成プロジェクト
9	栄養による健康管理能力UP プロジェクト
10	3学科の協働によるヒトを対象とした卒論指導プロジェクト：誕生から就学までのペアレンティング
11	探究心、向上心、自律性、語学力を育む「+i」の学習コミュニティの構築 i=inspiring, interdependent, independent, infinity, innovative

(4) FD・SD活動

①[FD] (=Faculty Development、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組)

- 時代の変化に応じた新たな試みとして、授業におけるアクティブ・ラーニングの実践に対して全学的な意識を向上させることを目的とする研修を実施
- 授業評価アンケートに関して、FD 委員会において改めてアンケートの意義を振り返り、本学におけるアンケートの実施目的や質問内容について協議し、結果を学生へフィードバックする方策も検討

②[SD] (=Staff Development、教職員が職能を改善し向上させるための組織的な取組)

- 行動指針である「求める職員像」を目指し、12 月実施の検査結果の分析に基づいて、研修体系を見直し、職能開発を推進
  - ・ 4 月、新たな職員人事制度がスタート、運用指針に「求める職員像」を追加
  - ・ 12 月には全職員の協力を得て適性検査 (OPQ) を実施
- 前年度に引き続き、「人材育成につながるモチベーションの向上」「人事考課の公正性・納得性の向上」を図り、職員の組織責任者を対象として、目標管理の定量化・数値化、達成度の適正評価ができるよう、目標管理研修を 2 回実施
- 職員のマネジメント能力を体系立てて育成することを目指し、まず 2019 年度は組織責任者対象に、役職に応じたコースの通信教育を導入 (受講者 16 名中 9 名が優秀修了)

<内部研修の実施と外部研修への参加状況>

主なSD	対象者	受講者数	実施
導入研修	職員(新任)	2名	10月
フォローアップ研修	職員(2年目)	3名	6月
ハラスメント研修	教員・職員 (臨時・派遣含む)	教員 126名 職員 106名	7月
情報セキュリティ研修	教員・職員 (臨時・派遣含む)	教員 127名 職員 117名	11~12月
管理職研修	職員(組織責任者)	17名	9月・2月
私学経営研究会	学園教職員	各回若干名	年12回
SPOD フォーラム (四国地区大学教職員能力開発ネットワーク)	教員・職員	6名	8月

## (5) 国際交流の推進

### ①国際学部の開設に向けて

- 認定留学出願基準および単位認定科目の見直しを実施と、認定留学に関連する全規程を改定および制定
- 国際学部留学奨学金規程に基づいた選考内規の制定、運用を検討
- 留学説明会、留学手続き、そして留学事前指導～帰国後までのプロセスを検討

### ②海外有力大学との連携強化

- 新規連携先の開拓
  - ・ 全学プログラムにおける新規の海外留学先（アメリカ3校、韓国1校）を開拓、2020年度募集準備完了



カリフォルニア州立大学  
サンマルコス校



カリフォルニア州立大学  
ロングビーチ校



オレゴン大学



梨花女子大学校

- 全学プログラムと国際学部主催プログラムとの参加者バランスの検証を検討

2019年度 派遣実績（全学プログラム）

種類	留学先	派遣人数
交換・認定留学（長期）	天津外国語大学	1（認定1）
	淑明女子大学校	8（交換2・認定6）
	誠信女子大学校	3
	リジャイナ大学	3
	GCEL	3
	リーズ大学	4
	ウエリントン・ヴィクトリア大学	2
	ヨーク大学	2
	ナント大学	1
	ガジャマダ大学	1

種類	留学先	派遣人数
海外演習・海外実務研修（短期）	韓国語・韓国文化研修（淑明女子大学校）	新型コロナウイルス感染拡大に伴う派遣中止
	英語・カナダ文化研修（リジャイナ大学）	夏季：15 春季：新型コロナウイルス感染拡大に伴う派遣中止
	中国語・中国文化研修（復旦大学）	8
	ホスピタリティ・ビジネス研修（ELS ホノルル校）	8

### ③海外留学危機管理の強化

- 教育イノベーションおよびFDと連携し、リスクマネジメントや学生のメンタルサポートに関する研修を教職員対象に実施
- グローバルキャリアセミナーを、交換・認定留学予定者対象に年2回実施し、留学する目的を考え、将来にどうつなげていくかを考える機会を提供
- 安心・安全な留学を掲げた危機管理の徹底
  - ・ 危機管理オリエンテーションの実施（保証人&学生対象）
  - ・ 現地アドバイザーとの密な連携
  - ・ LINEによる学生個々への対応
  - ・ 「月間報告書」による担当教員との情報共有
  - ・ 「在留届」登録の徹底指導



グローバルキャリアセミナー

- ・「旅行届」提出の徹底管理
  - ・外務省からの渡航危険情報、感染症危険情報の共有（保証人&学生に送付）
  - ・日本アイラック株式会社の安否情報確認システム「アイサーチ」登録による学生の安否確認
- 危機管理における学生および教職員の意識を向上
- ・危機管理シミュレーションの実施
- 世界レベルの感染症やテロなどが広がる可能性を深慮した本学におけるリスク管理の明確化を検討

新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症拡大防止及び危機管理対応に則して留学者の緊急帰国と派遣の中止を実施

## （6）キャリア教育

### ①文学部・人間科学部

- 現在 8 科目で構成されるキャリア関連科目を見直し 5 科目に集約し、各科目の教育目的の明確化と、学生にとって理解しやすい編成を実現
- 資格サポートセンターの現状を分析し、業務委託先を変更。公務員就職等を目標とする等、学生のキャリア形成に必要な資格ラインナップを拡充
- 課題解決型学習※4（PBL）と経験学習を組み合わせたリーダーシップ科目について、上級生である LA（Learning Assistant）が新生を指導する仕組みを継続して実施  
（※4）課題解決型学習とは複雑な課題や挑戦しがたい問題に対して、生徒が少人数のグループでの自律的な問題解決・意志決定・情報探索などを通じて解決を目指す学習方法

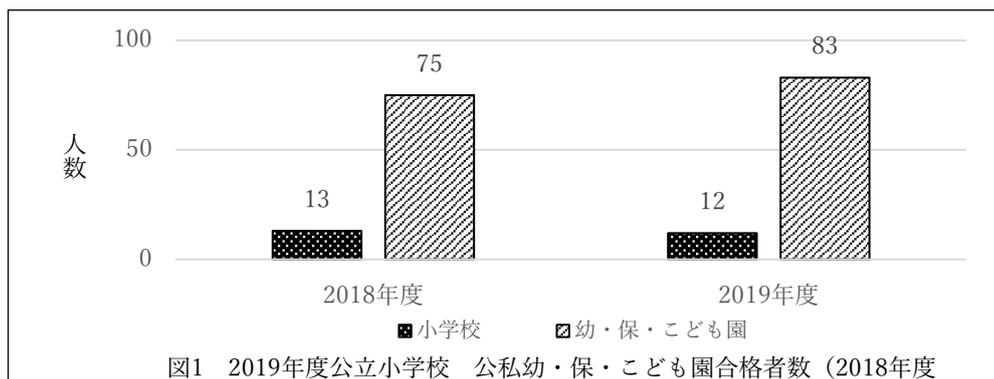
### ②人間科学部総合子ども学科

- 2019 年度は、保育士資格 107 名、幼稚園教諭第一種免許 146 名、幼稚園教諭専修免許 1 名、小学校教諭第一種免許 67 名、小学校教諭専修免許 1 名が資格・免許を取得

<免許取得者数>

資格・免許	取得者数
保育士資格	107
幼稚園教諭第一種免許	146
幼稚園教諭専修免許	1
小学校教諭第一種免許	67
小学校教諭専修免許	1

- 教職実践基礎演習、教職実践演習等の授業において保育所、幼稚園、小学校勤務経験をもつ卒業生を招き教諭・保育士の仕事の実際について学ぶ機会を設け、キャリアイメージの涵養に努めた
- 公立保育所、公立幼稚園、公立こども園採用試験対策として、2019 年度・2020 年度に採用試験を受ける 3 年生（第 1 回）4 年生（第 2 回）を対象に模擬試験を実施（第 1 回は 33 名、第 2 回は 16 名）
- 2019 年度は小学校教員採用試験合格者 12 名（昨年度 13 名）、小学校非正規任用 6 名（昨年度 6 名）、公立幼・保・こども園合格者 13 名（昨年度 13 名）、幼保こども園非正規任用 1 名（昨年度 2 名）と昨年度とほぼ同数で推移  
-公私幼・保・こども園・施設就職内定者数は 83 名と昨年度と比較して約 10%増加（学科卒業生数の約 53%）



### ③看護リハビリテーション学部

#### [看護学科]

- 将来像を描けるように卒業生や現職者をモデルとして提示しイメージ化を促す支援、キャリアプランワークシートを用いた個別支援、学内就職説明会の開催
- 国家試験対策を実施、2019年度合格者【別表①】
- 品格ある女性専門職者として、国際的なキャリアを探究するためのグローバルキャリア教育を実施
- 看護学実習ポートフォリオを活用し、個別の支援を行うとともに、就職後の継続的な看護実践能力の向上につながる活動を実施

#### [理学療法学科]

- 基本的理学療法の実践能力の修得を強化
- 臨床実習指導強化施設を利用し、学生の能力や学習状況に合わせた充実した実習指導を展開
- 『理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則』の改正（2020年4月入学生より適用）に伴い実施されている「臨床実習指導者講習会」を本学に於いても実施
- 卒業生に対し、多様なキャリア形成、認定・専門理学療法士取得などを目的としたキャリア支援を実施
- 国家試験合格率向上のために、CBT（Computer-Based Testing）を利用した効果的な学習を実施
  - ・ 2019年度は特に大幅に問題を変更し、内容の厳正化を図るとともに、将来に向けて試験的にe-ラーニングを開始（2019年度合格者【別表①】）

#### 【別表①】

看護師・保健師・助産師・理学療法士 国家試験結果（既卒生含む）

	職 種	受験者数 (名)	合格者数 (名)	合格率 (%)	全国平均 (%)
2019年度	看護師	101	100	99.0	89.2
	保健師	36	36	100.0	91.5
	助産師	7	7	100.0	99.4
	理学療法士	56	55	98.2	86.4
2018年度	看護師	95	94	98.9	89.3
	保健師	31	31	100.0	81.8
	助産師	8	8	100.0	99.6
	理学療法士	64	61	95.3	85.8
2017年度	看護師	109	109	100.0	91.0
	保健師	37	36	97.3	81.4
	助産師	9	9	100.0	98.7
	理学療法士	77	75	97.4	81.4

### ④医療栄養学部医療栄養学科

- 1年生：キャリア意識醸成のため、「管理栄養士入門」により様々な職域への理解を深めた。また入学直後の4月には、キャリア形成に必要な文章作成能力の向上を目的に「文章書き方講座」を実施
- 2年生：管理栄養士としてのキャリアの実際を理解することを目的に、病院や福祉施設などの見学を行い、仕事内容や役割を理解
- キャリアセンターとともに第1回キャリアガイダンスを実施し、卒業後のイメージを描き始めた
- 学科独自のキャリアガイダンスの第1歩として「教えて先輩」を企画、3名の若手管理栄養士から就職活動の体験談を聞き、意見交換を実施
- 兵庫県栄養士養成施設協会の「栄養士をめざす学生の研修会」には42名が参加し、キャリアについて学ぶ機会を提供

## 2. 研究体制

### (1) 学内の各種研究助成による研究支援

- 大型の外部研究資金の獲得も視野に入れ、本学における研究活動の充実を図るべく、以下のとおり、各種の制度による研究助成を実施

<助成金申請件数>

助成制度	内訳・件数（前年度）
教育研究申請奨励基金	出版助成 0 (1) 海外視察 0 (2) 研究活動 9 (8) その他 0 (0)
科研費申請奨励金	3 (2)
国内・在外研究員	1 (0)

### (2) その他の研究助成

<外部研究資金の獲得額>

単位（千円）

外部資金名（研究代表者分）	件数（前年度）	金額（前年度）
共同研究	3 (4)	2,750 (10,375)
受託研究	1 (1)	3,900 (4,030)
科学研究費助成事業	43 (48)	28,650 (37,300)

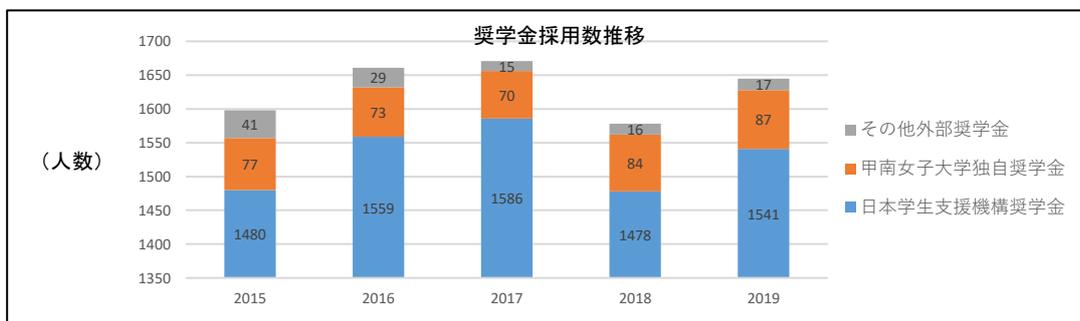
- 外部研究資金の採択件数増加を目的として、申請書類の記述に関するフォローについて、記入要領に基づく事務的な様式の点検に留まらず、外部機関による記載内容の添削を実施するための準備を実施

## 3. 学生支援活動

### (1) 学生生活支援

#### ①奨学金事業

- 前年度に引き続き、100周年記念事業の一環として甲南女子大学独自奨学金に含まれる甲南女子大学奨学金の予算枠・採用数を増加
- 2020年度から開始される国の「高等教育の修学支援新制度」に対応した奨学金制度の変更を実施



#### ②学生寮運営事業

- 2019年度入寮者より寮費を8,000円値上げし、快適な寮生活のための設備改修、安全のための防犯カメラ更新に充当
- 前年度学生から申し出に応じ食事内容の改善を実施、再度学生アンケートを行い、改善状況を確認
- 現建物での学生寮運営について検討を行い、将来における学生寮の廃止を含めて検討

### ③学生の安全確保

- 1年生及び教職員に対して4年連続で避難訓練を実施、1～4年生の在籍学生が避難経路を確認
- 安否確認システムの動作確認を実施

### ④学生サービスの充実

- 教育後援会の協力を得て学内移動専用傘を作成、学生サービスをさらに拡充
- 教育後援会の協力を得て体育館地下2階のフィットネスルームにトレーニングマシンを複数導入し、専門家によるトレーニング指導を実施
- 老朽化していた第1学生会館2階学生食堂の改善を実施、安全面及び混雑時への対策を実施
- 学園創立100周年を記念した「100周年の木」を設置、記念メッセージを募集



学内移動専用傘



トレーニング指導



100周年の木

### ⑤100円朝食提供

- 教育後援会及び大学生協の協力を得て100円朝食を提供  
(2019年度：1,505食を提供、(前年：1,478食))

### ⑥保健センターの運営

- からだの支援室とところの支援室が連携し、利用者のサポートを実施  
(2019年度利用者：対前年比5.37%増)
- 教職員向けに避難訓練時に担架搬送体験を実施、緊急時を想定した訓練を実施



担架搬送体験

### ⑦障害学生へのサポートについて

- ノートテイク希望学生に対して協力学生30名、支援実施学生6名と協力し38回相当の授業支援を実施
- 障害学生との懇談会を前期後期各1回実施、今後支援の在り方について意見を交換
- 学内有志による「大学未来ネット」では保健センター及び学生生活課員が学生支援の現状を発表、併せて実際にサポートを受けている学生2名も発表、教職員に支援の現状と協力を依頼

<支援を必要とする学生数推移>

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
学生支援※5	10	15	22	19	25
学科支援※6	12	8	8	1	0
障害のある学生※7	10	10	9	6	8
観察学生※8	14	15	61	60	82

(※5) 主治医の診断書と本人の主訴を基に学生支援連絡会議により対応を検討する

(※6) アドバイザー教員を主体として学科と連携して支援を行う

(※7) 障がい者認定を受け、手帳を所有している

(※8) 保健センターでの援助を主とし、必要に応じてアドバイザー教員への連絡を行う

## (2) キャリア支援

### ①就職支援

- 企業との関係性強化の為、約 150 社の優良企業を訪問、学生相談体制を強化し、収集した採用情報等について、フィードバックを実施
- 上級生が下級生を指導する「ピアサポート」に、4 年生 34 名（ピアサポーター）による就職座談会（ミライサポート）」を実施（計 4 回：合計約 70 名が参加）
- 3 年生を対象に企業 105 社を招聘、学内で企業説明会を開催（2 月）、3 年生延べ約 5,800 名（申込みベース）が参加  
その他の講座等の開催も含め各業界や仕事、企業等の研究が行える環境を整備



就活メイク・マナー講座

#### <2019 年度 就職率等（単位%）>

項目／学科	大学全体	日本語 日本文化	英語文化	多文化コ ミュニケーション	メディア 表現	心理	総合 子ども	文化社会	生活環境	看護	理学療法
就職率	99.2	96.7	100.0	100.0	98.6	97.8	99.3	100.0	100.0	100.0	100.0
実就職率	94.5	90.8	95.8	91.1	89.0	88.3	96.7	97.5	98.9	98.0	98.0
就職希望率	94.2	93.9	95.8	90.0	90.2	84.5	96.7	97.5	98.9	97.0	98.0

### ②教職支援

- 幼保の就職試験の内容や結果に関する報告書のフォームを作成し、ゼミの教員の協力を得て報告書を収集した。今後、キャリアセンターとも連携しながら、学生の就職を見据えた教職支援を実施
- 教職支援課配置教員 2 名による幼保実践講座では、主に幼稚園や保育所、施設などの現場で役立つ技能や知識を身につける講座を昼休みに実施
  - ・ 2019 年度は手袋シアターを作成した学生が 65 名となり、多くの学生が幼保実践講座や講座以外の時間にも教職支援課で作成
- 教員採用試験合格者による報告会を実施し、ロールモデルとの交流により学生のモチベーションを向上
- Teacher's Cafe の取り組みが定着し、教員を目指す学生同士が学科や学年を超えて交流を深める場を提供
- 神戸親和女子大学と協定を締結し、2020 年度以降に入学する日本語日本文化学科と国際英語学科の中高教職課程を履修する学生に、通信教育課程の科目等履修によって小学校教員免許を取得できる環境を整備

#### <2019 年度(2020 年夏受験) 東京アカデミー教員採用試験対策講座開設状況>

◆開講時期：2019 年 11 月～2020 年 3 月

( ) は昨年度実績

講座名	教員採用試験対策 13 名 (51 名)				共通対策 5 名 (22 名)	公立幼保試験対策 18 名 (54 名)		
	教職教養	一般教養	人物試験 対策	小学校 専門	一般知能	社会科学	人文科学 社会科学	人物試験 対策
人数	6 名	3 名	4 名	0 名	5 名	5 名	7 名	6 名

◆2018 年度(2019 年夏受験)東京アカデミー講座受講生のうち、教員・保育士就職者数

就職状況 ※9	公立中学校教諭： 1 名	公立保育士： 7 名 (内任期付 1 名)
	公立小学校教諭： 5 名	公立幼稚園教諭： 5 名※10
	小学校講師： 6 名 (内任期付 3 名)	私立保育士： 1 名
		私立幼稚園教諭： 7 名

(※9) 就職状況は 1 月調査時点での状況。(※10) 幼保連携型認定こども園への内定者は幼稚園教諭に計上。

#### <Teacher's Café 実施概要>

参加者 (中高教職課程履修学生のうち希望者対象)	日本語日本文化学科 4 名、英語文化学科 2 名 (計 6 名)
主な活動内容	・ 合同勉強会 前期 (金曜日 3 限) 後期 (水曜日 お昼休み) 集団討論 (面接)、教員による講評、質疑応答等

## <2019年度 幼保実践講座>

テーマ	開催日	人数
赤ちゃん抱っこ・おむつ替え	5/24～6/28	125名
手遊び・わらべうた	5/22・5/23	10名
ペープサート	5/29・5/30	10名
手袋シアター	6/5・6/6・6/27	65名 (個別対応 14名含む)
絵皿・紙コップ	6/12・6/13	5名
エプロンシアター作り	11/21	13名 (個別対応 10名含む)
フェルトで手作り名札 ※11	11/25～12/6 ※12	16名
体を動かす遊び	12/3	3名

(※11)「フェルトで手作り名札」は、5/16、5/28に実習前の学生3名に個別でも実施。

(※12) 時間内で終わられなかった学生たちのために11/28～12/6まで延長で実施。

## 4. 学生募集

### (1) 学生募集活動

#### ①学生募集活動

- オープンキャンパス来場者数は、7,470名(対前年度比で94%)3月開催分は中止
- 外国人留学生の獲得のため、上海、香港、台湾にてプロモーション活動を実施

#### ②入学試験の状況

- 総志願者数は15,243名、対前年度比109.6%で、2018年度入試から3年連続で過去最高数を更新
- 入学者数は、1,035名(定員超過率1.06%)

#### ③高大接続改革の進捗

- ・ 総合型選抜を全学科で導入し、アドミッションポリシーに沿った多面的・総合的評価を実現
- ・ 英語4技能への対応として、外部検定試験を活用した入試制度を導入

### (2) 広報活動

- 従来型の受験産業広告と併用し、SNS広告を積極的に導入(国際学部サイトへの訪問者が本学コンテンツの中で過去最高を記録)
- オープンキャンパスにて「未来の私と話をしよう」のコンセプトを設け、受験生心情に即したPRを展開
- 大阪エリアでの認知度拡大施策としてデジタルサイネージによる広告展開を実施
- 外部サービスを活用し、プレスリリースの効率を向上。メディア掲載は26件(昨年度比137%)
- SNSの積極的な推進
  - ・ Twitterインプレッション(≒閲覧数)12,633,914
  - ・ LINE@友だち延べ数は年間で4,000人増加(関西女子大1位)

## 5. 環境整備

### (1) キャンパスの整備

#### ①環境の向上

老朽化設備のリニューアル

- 4号館2階、4階、6階のトイレをリニューアル、清潔で快適な空間を整備
- 3号館及び7号館にて教室設置椅子を改修、学習環境の向上を実施

#### ②建物維持管理

- 8号館エレベータをリニューアル、機能改善を実施

## (2) 情報インフラ整備

### ①講義室AV機器更新

○ 3号館の14教室に設置されたAV機器をデジタル環境へ改修、学習環境の改善を実施

### ②情報セキュリティ

- コモンルーム設置パソコン他、最新OSへのバージョンアップを実施、セキュリティを向上
- 機器(Firewall)を高性能・多機能な機器に更新、セキュリティを向上
- 情報漏洩対策として、意識向上を図るため、全教職員を対象に情報セキュリティ研修を実施

### ③無線LANの拡充

○ コモンルームを中心に無線LAN環境の拡充、自学自習環境の充実を実施

## 6. 地域連携・社会貢献活動

### (1) 地域連携・社会貢献活動の推進

#### ①教員免許状更新講習

- 免許更新に必要な30時間全ての講座を本学で受講可能とし、受講者ニーズに対応して選択講座を1講座増設
- 卒業生の優先受け入れを検討し、試験的に個別に対応。地域の現職教員や卒業生490人に受講の機会を提供することによって地域社会と連携

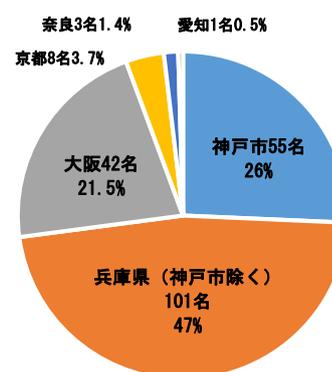
<2019年度 教員免許状更新講習 開設状況> ( )は前年度実績

	必修	選択必修	選択7講座 (6講座)	合計
開催日	8/19	8/20	8/20~8/23	-
受講者数 (延べ数)	89名 (95名)	39名 (81名)	362名 (321名)	490名 (497名)

<地域別受講者数(実人数・受講者の住所地による)>

地区	受講人数	割合
神戸市	55名	25.7%
兵庫県(神戸市を除く)	101名	47.2%
大阪	42名	21.5%
京都	8名	3.7%
奈良	3名	1.4%
愛知	1名	0.5%
合計	214名	100%

地域別受講者数



#### ②生涯学習講座

○ 「English in the World ~英語圏はいま」をテーマに、英語文化学科教員による講座を実施

<開催講座一覧>

回数・日付	講師	テーマ	参加者数
前期:第1回 7月3日(水)	S. ブラウン 教授	Brexit and the UK ーブレグジットへと進むイギリスー	26名
前期:第2回 7月10日(水)	ウォント盛 香織 准教授	ハワイのロコ文化 ー花開く民族多様性ー	12名
後期:第3回 10月30日(水)	谷川 冬二 教授	物語歌を通して見るアイルランド文化の潮流	25名
後期:第4回 11月20日(水)	梅原 大輔 教授	英語圏に広がる日本語 ~futonからemojiまで~	22名

- 参加者アンケートの結果、「健康」や「食」以外にも関心が高く、他の公開講座との差別化を図り、本学ならではのテーマによる学外での生涯学習講座の展開を検討

### ③学生・生徒×社会・企業連携プロジェクト

- 学園 100 周年記念プロジェクトの一環として各種プロジェクトを実施
  - ・ 学生グループが北野異人館風見鶏の館グループと共同で案内リーフレットを作成
  - ・ 株式会社チャイナロードジャパン（ショコラリパブリック）との連携開始。同社と学生たちが共同で 100 周年記念デザートプレート開発、販売
  - ・ 株式会社チャイナロードジャパン（ショコラリパブリック）との活動について、清光会と連携し、全学的な展開を検討
  - ・ 継続可能な企業等とのさらなる新規連携について検討を行う



北野異人館  
「風見鶏の館案内リーフレット」

## (2) 産官学連携

- 株式会社阪急阪神百貨店（西宮阪急）食品部とのコラボレーションを継続中（商品の企画・販売、セミナーの開催等）
- 新規の共同事業
  - ・ 大阪ガス株式会社（小学校出張授業「和食だし体験講座」を受講した子どもたちと保護者の調査研究）
  - ・ 笹井酒造株式会社（多可町産山田錦を使用した日本酒の製造）
- 地域連携協定のもと東灘区との連携事業として、東灘区主催のイベントを実施
  - ・ 「夏休み子どもいろいろ体験スクール」（7月24日 学内実施）
  - ・ 「ひがしなだスイーツめぐり スイーツ教室」（11月4日 学内実施）
  - ・ 「東灘ファミリーフェスティバル」（2020年2月15日 学外実施）
- 多可町との包括連携協定を締結（2019年3月）、3つのプロジェクトが活動し成果獲得

### <東灘区連携事業>



夏休み子どもいろいろ  
体験スクール



ひがしなだスイーツめぐり  
スイーツ教室



東灘ファミリーフェスティバル

### <多可町連携事業>



カントリーロード  
八千代区中村地域おこし



医療栄養学科  
地域野菜を使ったレシピ開発



多文化コミュニケーション学科  
地域との国際交流・農業体験

- 神戸トヨペット株式会社との連携を協議（SDGs を絡めた活動等）、2020 年度からの協力活動に向けての準備を完了
- 甲南病院、甲南大学、神戸薬科大学、甲南女子大学及び東灘区役所の 5 機関による、「東灘次世代医療人材育成コンソーシアム」を設立し、若手医療人材育成の新たなモデルを構築
  - ・ 7 月に「終活」をテーマに市民公開講座を開催
  - ・ 甲南会との人的連携強化として、実習生の受け入れ、非常勤講師の派遣、教員の臨床指導などを実施
- 多可町との連携活動の見直しおよび強化を検討

### （ 3 ） 高 大 連 携

- 入試制度及び教育制度改革を見据えた甲南女子高校との連携強化
  - ・ 看護リハビリテーション学部・医療栄養学部を主体とした高校 3 年生対象「大学講座Ⅳ」の新設
  - ・ 高校 2 年生対象 1 講座・高校 3 年生対象 3 講座を開設、のべ 66 名が受講
  - ・ 全大学講座における授業アンケートの実施及びフィードバックを検討中

## 7. 管理運営

### （ 1 ） 学 園 の 管 理 運 営 体 制

- 私立学校法改正（2020 年 4 月 1 日施行）に対応した寄附行為の変更を実施
  - ・ 監事の権限の強化、適切な情報公開の実施等の内容を盛り込んだ「甲南女子学園寄附行為」を改正
  - ・ 寄附行為の改正について文部科学大臣より認可（2020 年 2 月 20 日）
  - ・ 甲南女子学園寄附行為等を web サイトに掲載し、適切な情報公開を実施

### （ 2 ） 職 員 人 事 制 度

- 職員人事制度を一部改定し、「3 級（副主任）」を新たに格付け。制度変更のスタート時のため格付けのみの昇格を実施（2019 年度昇格人事）
- 昇格選考を実施、3 級（副主任）6 名、5 級（課長補佐）1 名、6 級（課長）1 名が昇格（2020 年度昇格人事）
- 「人材育成につながるモチベーションの向上」「人事考課の公正性・納得性の向上」を図り、目標管理を定量化・数値化し、達成度の適正評価ができるよう、管理職研修を 9 月・2 月に実施

### （ 3 ） 労 働 環 境 の 維 持 向 上

- 教員対象にアカデミックハラスメント・セクシャルハラスメント、職員対象にはモラルハラスメント・セクシャルハラスメントをテーマとして、臨時職員・派遣職員を含む全教職員を対象に、ハラスメント研修を実施（教員 126 名、職員 106 名参加）
- 学部設置・改組を契機として、ハラスメント等人権問題委員会の人員構成の適正化を実施
- 過半数代表者の選出について、10 月の教学経営会議にて選出規程案の審議を実施。時期や方法、スケジュールについて検討を実施。細部について顧問弁護士や労働組合と調整し、選出を進めることを確認
- 教職員の健康診断受診率が 100% を達成（2019 年度：職場外での受診を含む）
- ストレスチェックを実施、高ストレス者が多くみられた部署には、組織責任者との情報共有を実施（受検率は 73%、目標 80%）
- 職場巡視の実施（毎月）、2019 年度は産業医同行での巡視も 2 回行い、必要な指導を実施

## IV. 中学校・高等学校

### 1. 教育課程

- 新学習指導要領に沿った教育課程の編成
  - ・「魅力ある学校づくりプロジェクト」の報告を受け、総合学習（3. に記載）を本校教育の1つの柱として再編することを決定
  - ・「カリキュラム委員会」を発足、「新学習指導要領」の内容を教科ごとに研究したうえで、6か年でつきたい力をどの単元でどのようにつけていくかを検討
  - ・教科ごとに「対話的で深い学び」実践事例を共有
  - ・教科横断的な学びの可能性を探り、高3で新規の講座を2020年度より開設（総合表現）
  - ・新学習指導要領に沿った教育課程編成の完成を目指す
  - ・コース（スタンダード、S アドバンスト）毎の独自性を考慮し、コースブランディングの確立を目指す

### 2. 授業力向上

- 教員一人一人の教科力向上、各「教科」の組織力強化
  - ・「大学入学共通テスト」について研究し、各定期考査に新傾向問題を一部出題
  - ・1学期末に「授業アンケート」を実施、2学期以降の授業改善に活用
  - ・自己研鑽のため「Find!アクティブラーナー」(※13) 導入
  - ・2020年度よりタブレット導入（専任教員、生徒全員）を決定、教員研修を実施
  - ・「主体的・対話的で深い学び」の実践、授業におけるタブレットの活用に向けての研修を実施予定
  - ・教科会の活性化を検討

(※13) 株式会社Find アクティブラーナーが提供するWeb配信型の会員制教育情報サービス。オンデマンド形式で、有識者の講演、各種スキルの育成セミナー、他校の授業見学などの動画が視聴できる。各教員のワークスタイルに応じた研修時間の確保が可能である。

### 3. 総合学習

- 本校の教育方針「自学創造」に通じる総合学習（中2 平和、中3 保育実習、高1 探求）の実施
  - ・学外との積極的な連携
  - ・学ぶ・書く・調べるなどのスキルを身に付けることを意識した学習
- 6か年を通じた表現力・発信力の育成、対話と協働を重視した教育内容の構築
  - ・総合学習検討委員会の発足
  - ・次年度以降の新しい学びのかたちの構築



広島研修旅行で被爆建物（旧日銀）を訪問

### 4. 生徒指導

- 挨拶・清掃・整理整頓等、社会生活上の基本となる人間教育を学年担任と連携して強化
- 生徒指導上の情報共有・共通理解をもとに、こころの教育を強化
- 「いじめ対策委員会」を機軸として不登校やいじめ等に対応、生徒が安心して通学・成長できる環境を強化
- 教育相談委員会、学年担任、生徒指導部、養護教諭、スクール・カウンセラーが連携し、問題を早期に発見・対応
- 生徒の安全対策として、登下校時の見守りや、部活動で遅くなった場合の集団下校を実施
- 防災・避難訓練、救命方法の講習等を実施
- 部活動をとおして、組織の一員としての役割を実行
- 学校行事・生徒会活動など、学年・コースの枠を超えた生徒主体となる活動を通して、自立した女性を育成

## 5. 国際交流

- 新規事業としてシンガポール・南洋女子高校への中期留学と来日ツアーの受入れ、韓国・培花女子への中期留学を導入

### <2019 年度留学実績一覧>

		留学先	留学期間
協定校送り出し	中長期留学 (S1~S2)	セント・マーガレット(2名) /オーストラリア	2019/7/14~9/15
		南洋女子(2名) /シンガポール	2019/8/4~8/31
		クイーンズウッド(1名)/イギリス	2019/8月下旬~2020/7月上旬
		培花女子(2名) /韓国	2019/8/15~9/12
	短期留学 (J3~S2)	カナダ研修/カナダ	2019/7/25~8/7
		南洋女子(20名以内) /シンガポール	2019/8/22~8/27
	交換留学	セント・マーガレット(2名) /オーストラリア	2019/9/30~12/1
協定校受け入れ	学校訪問来日ツアー	南洋女子(19名) /シンガポール	2019/6/5~6/6 (来日 6/1-10)
	受入れ協力 (甲南高校姉妹校)	ハワイ ル ジャルダン/アメリカ	2019/6/13~25
	受入れ協力	YFU 国際交流財団	2019/6 /27~29
	学校訪問来日ツアー	シドニーガールズスクール /オーストラリア	2019/9/30~10/4 (ホームステイ 9/29~10/5)
	交換留学	培花女子/韓国 (2名)	2020/2/10~22
学外プログラム	短期留学 (J1~J2)	LA 語学研修/アメリカ	2020/3月28~4/5 (コロナウイルス流行により中止)
	夏期 個人留学	Bell-Bloxham/イギリス	2019/7/28~8/10
		Bell-Wellington/イギリス	2019/7/31~8/13

## 6. 進路指導

- 2020 年度 大学合格実績

区分	合格			進学		
	現役	既卒	合計	現役	既卒	合計
国公立大学	31	9	40	27	9	36
私立大学	492	83	575	119	20	139
その他	5	0	5	3	0	3
進学準備				20	0	20
合計	528	92	620	169	29	198

- ・国公立大学 合格者数 40名のうち 京都大・大阪大・神戸大 合格者数 18名 (内4名が既卒)
- ・国公立大 医学部医学科 合格者数 3名 (内2名が既卒)
- ・私立大 医学部医学科 合格者数 21名 (内20名が既卒)

- 基礎期における学習習慣の確立
  - ・「スケジュール帳」を有効に利用した時間管理や学習計画の立て方を指導
  - ・毎日の行動の「振り返り」に「スケジュール帳」を活用する指導を検討
- 充実期における「キャリア教育」の充実
  - ・中3 保健体育の授業に理学療法学科による出張授業を実施
  - ・看護学科による中3 衛生講話を実施(11月～2月に8回)
  - ・読売教育ネットワーク「早期医療体験プログラム」に高校2年1名が参加
- 「大学入試改革」への対応
  - ・中学3年から高校2年の保護者対象の進路講演会を実施
  - ・国公立大学推薦入試、AO入試に関する情報の収集と分析
    - 大阪大学世界適塾入試1名、神戸大学推薦入試2名、大阪府立大学推薦入試1名が合格
- 甲南女子大との連携強化
  - ・医療栄養学部 施設見学(全学年 保護者対象)を実施(約90名が参加)
  - ・甲南女子大 学部説明会(高3生徒および高校保護者対象)を実施
  - ・大学授業見学(高3生徒対象)を実施(約15名が参加)
  - ・医療栄養学部 体験授業(高校生対象)を実施(2名が参加)
  - ・高2 選択授業「フードデザイン」受講生を対象に、大学施設で授業実施



保護者対象進路講演会



看護学科による中3衛生講話

以上

## V. 財務の概要

### 1. 2019年度決算の状況

#### 【資金収支計算書】

##### 【収入の部】

(単位：千円)

科目	2019年度決算	2018年度決算	増減	増減率
学生生徒等納付金収入	6,438,842	6,117,899	320,943	105.25%
手数料収入	129,267	122,894	6,373	105.19%
寄付金収入	133,164	95,052	38,112	140.10%
補助金収入	487,561	568,526	△ 80,965	85.76%
資産売却収入	3,478,379	1,639,524	1,838,855	212.16%
付随事業収入	84,570	87,578	△ 3,008	96.57%
受取利息・配当金収入	238,225	195,579	42,646	121.80%
雑収入	89,808	128,194	△ 38,386	70.06%
前受金収入	1,075,090	1,188,086	△ 112,996	90.49%
その他の収入	336,948	876,637	△ 539,689	38.44%
資金収入調整勘定	△ 1,252,780	△ 1,230,777	△ 62,569	105.30%
計	11,239,074	9,789,192	1,449,882	114.81%
前年度繰越支払資金	6,688,741	6,251,266	437,475	107.00%
収入合計	17,927,815	16,040,458	1,887,357	111.77%

#### 『収入の状況』

資金収入計(前年度繰越支払資金を除く)は、前年比14億49百万円増の112億39百万円となった。

主な増加は、学生生徒数増加に伴う学生生徒等納付金収入の増加3億20百万円と資産売却収入の18億38百万円増で有価証券の満期償還の増加によるものである。主な減少は、その他の収入の5億39百万円減で主なものは特定資産取崩収入(定期預金満期)5億円の減少によるものである。

##### 【支出の部】

(単位：千円)

科目	2019年度決算	2018年度決算	増減	増減率
人件費支出	3,757,092	3,818,483	△ 61,391	98.39%
教育研究経費支出	1,324,747	1,207,537	117,210	109.71%
管理経費支出	850,338	682,013	168,325	124.68%
施設関係支出	424,561	253,922	170,639	167.20%
設備関係支出	429,640	210,379	219,261	204.22%
資産運用支出	4,036,425	2,857,352	1,179,073	141.26%
その他の支出	653,913	735,190	△ 81,277	88.94%
資金支出調整勘定	△ 527,395	△ 413,159	△ 114,236	127.64%
計	10,949,321	9,351,717	1,597,604	117.08%
次年度繰越支払資金	6,978,494	6,688,741	289,753	104.33%
支出合計	17,927,815	16,040,458	1,887,357	111.77%

#### 『支出の状況』

資金支出計(次年度繰越支払資金を除く)は、前年比15億97百万円増の109億49百万円となった。

主な増加は、有価証券や特定資産の購入といった資産運用支出11億79百万円であり、主な減少は人件費支出の61百万円の減少によるものである。

## 【 資金収支差額の部 】

(単位:千円)

科 目	2019 年度決算	2018 年度決算	増 減	増減率
資 金 収 支 差 額	289,753	437,475	△ 147,722	66.23%

※資金収支差額＝資金収入計－資金支出計

## 『資金収支差額』の状況

資金収支差額は前年比1億47百万円減の2億89百万円となった。この結果、次年度に繰越される支払資金は69億78百万円となった。

2019年度の主な施設設備整備事業は次のとおりである。

大学	1. 芦原講堂舞台照明設備工事	40百万円
	2. 歩道改修工事	38百万円
	3. 4号館2階改修工事	30百万円
	4. 4号館トイレ改修工事	27百万円
	5. 3号館4階改修工事	20百万円
中高	1. グラウンド人工芝整備	1億27百万円
	2. CALL 教室他 ICT 関連工事	32百万円
	3. 特別棟 AV 教室設備等更新	19百万円

## 【 活動区分資金収支計算書 】

(単位:千円)

科目	2019 年度決算	2018 年度決算	増 減	増減率
教育活動による資金収支				
教育活動資金収入計	7,296,182	7,076,944	219,238	103.10%
教育活動資金支出計	5,932,177	5,708,033	224,144	103.93%
差 引	1,364,005	1,368,911	△ 4,906	99.64%
調整勘定等	△ 15,308	80,460	△ 95,768	-19.03%
教育活動資金収支差額	1,348,697	1,449,371	△ 100,674	93.05%
施設整備等活動による資金収支				
施設整備等活動資金収入計	67,030	448,238	△ 381,208	14.95%
施設整備等活動資金支出計	2,570,981	1,917,280	653,701	134.10%
差 引	△ 2,503,951	△ 1,469,042	△ 1,034,909	170.78%
調整勘定等	28,064	△ 117,614	145,678	23.86%
施設整備等活動資金収支差額	△ 2,475,887	△ 1,586,656	△ 889,231	156.04%
小計 (教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額)	△ 1,127,190	△ 137,285	△ 989,905	821.05%
その他の活動による資金収支				
その他の活動資金収入計	3,964,186	2,195,470	1,768,716	180.56%
その他の活動資金支出計	2,547,244	1,621,286	925,958	157.11%
差 引	1,416,942	574,184	842,758	246.77%
調整勘定等	0	576	△ 576	0.00%
その他の活動資金収支差額	1,416,942	574,760	842,182	246.53%
支払資金の増減額 (小計＋その他の活動資金収支差額)	289,752	437,475	△ 147,723	66.23%
前年度繰越支払資金	6,688,741	6,251,266	437,475	107.00%
次年度繰越支払資金	6,978,494	6,688,741	289,753	104.33%

【 事業活動収支計算書 】

【 ①教育活動収入の部 】

(単位：千円)

科 目	2019 年度決算	2018 年度決算	増 減	増減率
学生生徒等納付金	6,438,842	6,117,899	320,943	105.25%
手数料	129,267	122,894	6,373	105.19%
寄付金	63,363	51,852	11,511	122.20%
経常費等補助金	485,331	568,527	△ 83,196	85.37%
付随事業収入	84,570	87,578	△ 3,008	96.57%
雑収入	90,016	128,194	△ 38,178	70.22%
教育活動収入計	7,296,391	7,076,944	219,447	103.10%

【 ①教育活動支出の部 】

(単位：千円)

科 目	2019 年度決算	2018 年度決算	増 減	増減率
人件費	3,763,619	3,829,665	△ 66,046	98.28%
教育研究経費	2,144,998	1,987,985	157,013	107.90%
管理経費	907,206	737,823	169,383	122.96%
徴収不能額等	0	967	△ 967	0.00%
教育活動支出計	6,815,824	6,556,440	259,384	103.96%

【 ①教育活動収支差額 】

(単位：千円)

科 目	2019 年度決算	2018 年度決算	増 減	増減率
教育活動収支差額	480,566	520,504	△ 39,938	92.33%

『教育活動収入の状況』

(1) 学生生徒等納付金

前年比 3 億 20 百万円増の 64 億 38 百万円となった。

期中の学生生徒数は 5,485 名(令和元年 5 月 1 日現在)で昨年度比 175 名の増加である。

(2) 手数料

前年比 6 百万円増の 1 億 29 百万円となった。手数料の主なもの、入学検定料 1 億 21 百万円である。

(3) 寄付金

前年比 11 百万円増の 63 百万円となった。主な寄付金は、100 周年記念事業募金である。

(4) 補助金

前年比 83 百万円減の 4 億 85 百万円となった。主な補助金は私立大学等経常費補助金 1 億 42 百万円、兵庫県私立学校経常費補助金 3 億 28 百万円である。

(5) 付随事業収入

主なものは、大学学生寮の寮費 71 百万円である。

(6) 雑収入

主なものは、退職金財団交付金収入 64 百万円及びその他の雑収入 20 百万円である。

この結果、教育活動収入合計は前年比 2 億 19 百万円(3.1%)増の 72 億 96 百万円となった。

『教育活動支出の状況』

(1) 人件費

前年比 66 百万円(1.8%)減の 37 億 63 百万円となった。期中の本務教職員数は 323 名、兼務教職員数は 320 名で、経常収入に占める人件費割合は 50.0%(前年同比率 52.7%)となった。

(2) 教育研究経費

前年比 1 億 57 百万円(7.9%)増の 21 億 44 百万円となった。減価償却額を除く経費は 13 億 24 百万円で、前年度より 1 億 17 百万円(9.7%)増加した。

経常収入に占める教育研究経費の割合は 28.5%(前年同比率 27.3%)となった。

(3) 管理経費

前年比 1 億 69 百万円(22.9%)増の 9 億 7 百万円となった。

経常収入に占める管理経費の割合は 12.0%(前年同比率 10.1%)となった。

この結果、教育活動支出合計は前年比 2 億 59 百万円 (3.9%) 増の 68 億 15 百万円となった。

『教育活動収支の状況』

今年度の教育活動における収支差額は、収入の増加を上回る支出増により、前年比 39 百万円 (7.6%) 減の 4 億 80 百万円となった。

【 ②教育活動外収入の部 】

(単位：千円)

科 目	2019 年度決算	2018 年度決算	増 減	増減率
受取利息・配当金収入	238,224	195,579	42,645	121.80%
その他の教育活動外収入	0	0	0	-
教育活動外収入計	238,224	195,579	42,645	121.80%

【 ②教育活動外支出の部 】

(単位：千円)

科 目	2019 年度決算	2018 年度決算	増 減	増減率
借入金等利息	0	0	0	-
その他の教育活動外支出	0	0	0	-
教育活動外支出計	0	0	0	-

【 ②教育活動外収支差額 】

(単位：千円)

科 目	2019 年度決算	2018 年度決算	増 減	増減率
教育活動外収支差額	238,224	195,579	42,645	121.80%

『教育活動外収入の状況』

(1) 受取利息・配当金収入

前年比 42 百万円増の 2 億 38 百万円となった。

内容は有価証券、積立特定資産の受取利息の増加によるものである。

『教育活動外支出の状況』

実績はなし。

『教育活動外収支の状況』

この結果、教育活動外の収支差額は、前年比 42 百万円 (21.8%) 増の 2 億 38 百万円となった。

【 ③経常収支差額 】

(単位：千円)

科 目	2019 年度決算	2018 年度決算	増 減	増減率
教育活動収支差額①+ 教育活動外収支差額②	718,791	716,083	2,708	100.38%

『経常収支差額の状況』

教育活動収支差額と教育活動外収支差額の合計である経常収支差額は、7 億 18 百万円となり、前年度より 2 百万円 (0.3%) の増加となった。

【 ④特別収入の部 】

(単位：千円)

科 目	2019 年度決算	2018 年度決算	増 減	増減率
資産売却差額	0	4,565	△ 4,565	0.00%
その他の特別収入	73,146	59,481	13,665	122.97%
特別収入計	73,146	64,046	9,100	114.21%

## 【 ④特別支出の部 】

(単位：千円)

科 目	2019 年度決算	2018 年度決算	増 減	増減率
資産処分差額	39,947	24,443	15,504	163.43%
その他の特別支出	0	0	0	-
特別支出計	39,947	24,443	15,504	163.43%

## 【 ④特別収支差額 】

(単位：千円)

科 目	2019 年度決算	2018 年度決算	増 減	増減率
特別収支差額	33,198	39,603	△ 6,405	83.83%

## 『特別収入の状況』

## (1) 資産売却差額

昨年度はスクールバスの売却差額があったが、今年度実績はなし。

## (2) その他の特別収入

前年比 13 百万円増の 73 百万円となった。主なものは、受配者指定寄付金 40 百万円及び中高の施設設備寄付金 24 百万円である。

## 『特別支出の状況』

## (1) 資産処分差額

前年比 15 百万円増の 39 百万円となった。主なものは、機器備品の処分差額 36 百万円である。

## 『特別収支差額の状況』

教育活動・教育活動外以外の特別収支差額は、前年比 6 百万円減の 33 百万円となった。

## 【 ⑤基本金組入前当年度収支差額 】

(単位：千円)

科 目	2019 年度決算	2018 年度決算	増 減	増減率
経常収支差額③＋ 特別収支差額④	751,990	755,686	△ 3,696	99.51%

## 『基本金組入前当年度収支差額（事業活動収支差額）の状況』

経常収支差額と特別収支差額の合計である基本金組入前当年度収支差額は、前年比 3 百万円減の 7 億 51 百万円となった。

## 【 ⑤当年度収支差額 】

(単位：千円)

科 目	2019 年度決算	2018 年度決算	増 減	増減率
基本金組入額	△ 586,255	△ 466,629	△ 119,626	125.64%
当年度収支差額	165,735	289,057	△ 123,322	57.34%
前年度繰越収支差額	5,160,382	4,871,326	289,056	105.93%
翌年度繰越収支差額	5,326,118	5,160,383	165,735	103.21%

## 『基本金組入・当年度収支差額の状況』

第 1 号基本金は、施設設備の取得分 4 億 86 百万円を組み入れ、第 3 号基本金には認定留学支援奨学基金 1 億円を組み入れた。

その結果、当年度の収支差額は昨年度より 1 億 23 百万円 (42.6%) 減少した 1 億 65 百万円となった。

## 【 貸借対照表 】

## 【 資産の部 】

(単位:千円)

科 目	2019 年度決算	2018 年度決算	増 減	増減率
固定資産	44,159,289	43,685,471	473,818	101.08%
有形固定資産	23,825,362	23,907,911	△ 82,549	99.65%
土地・建物・構築物	19,345,574	19,472,501	△ 126,927	99.35%
機器備品・図書・車両	4,479,788	4,435,410	44,378	101.00%
特定資産	13,415,419	12,859,458	555,961	104.32%
その他の固定資産	6,918,506	6,918,102	404	100.01%
有価証券	6,764,185	6,804,328	△ 40,143	99.41%
ソフトウェア他	154,320	113,774	40,546	135.64%
流動資産	7,105,180	6,837,389	267,791	103.92%
現金預金	6,978,494	6,688,741	289,753	104.33%
未収入金他	126,686	148,648	△ 21,962	85.23%
資産合計	51,264,469	50,522,860	741,609	101.47%

## 『資産の状況』

固定資産は、4億73百万円増加し441億59百万円となった。有形固定資産は82百万円減少したが、特定資産(積立金)が5億55百万円増加した結果である。

流動資産は、2億67百万円増加し71億5百万円となった。

この結果、資産総額は前年度より7億41百万円増加し512億64百万円となった。

## 【 負債の部 】

(単位:千円)

科 目	2019 年度決算	2018 年度決算	増 減	増減率
固定負債	1,143,774	1,137,248	6,526	100.57%
退職給与引当金	1,143,774	1,137,248	6,526	100.57%
流動負債	1,789,622	1,806,531	△ 16,909	99.06%
前受金	1,075,090	1,188,086	△ 112,996	90.49%
未払金他	714,532	618,445	96,087	115.54%
負債合計	2,933,397	2,943,779	△ 10,382	99.65%

## 『負債の状況』

退職給与引当金が6百万円増加した一方、流動負債は16百万円減少したため、負債総額は前年度より10百万円減少し29億33百万円となった。

## 【 基本金の部 】

(単位:千円)

科 目	2019 年度決算	2018 年度決算	増 減	増減率
第1号基本金	40,850,953	40,364,699	486,254	101.20%
第3号基本金	1,710,000	1,610,000	100,000	106.21%
第4号基本金	444,000	444,000	0	100.00%
基本金合計	43,004,953	42,418,699	586,254	101.38%

## 【繰越収支差額の部】

(単位:千円)

科 目	2019 年度決算	2018 年度決算	増 減	増減率
繰越収支差額	5,326,118	5,160,382	165,736	103.21%

## 【負債・純資産の部合計】

(単位:千円)

科 目	2019 年度決算	2018 年度決算	増 減	増減率
負債・純資産 計	51,264,469	50,522,860	741,609	101.47%

## (正味財産)

(単位:千円)

	2019 年度決算	2018 年度決算	増 減	増減率
基本金+繰越収支差額	48,331,071	47,579,081	751,990	101.58%

## 『純資産の状況』

当期において第1号基本金に4億86百万円を組み入れ、第3号基本金に1億円を組み入れたため、基本金総額は430億4百万円となった。

この結果、総資産から総負債を差し引いた純資産は前年度より7億51百万円増加し483億31百万円となった。

## 2. 財務状況の推移

事業活動収支計算書(5カ年)

(単位：千円)

科 目		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	5,861,979	5,909,904	5,886,772	6,117,899	6,438,842
		手数料	113,486	104,374	115,023	122,894	129,267
		寄付金	10,000	1,514	70,574	51,852	68,363
		経常費等補助金	425,175	422,612	472,985	568,527	485,331
		付随事業収入	77,683	81,494	79,830	87,578	84,570
		雑収入	154,501	186,039	137,192	128,194	90,016
		教育活動収入合計	6,642,824	6,705,937	6,762,376	7,076,944	7,296,391
	支出	人件費	3,535,963	3,623,365	3,718,889	3,829,665	3,763,619
		教育研究経費	1,757,285	1,785,800	1,759,357	1,987,985	2,144,998
		管理経費	711,207	790,657	758,705	737,823	907,206
徴収不能額引当金繰入額		4,189	1,392	343	967	0	
教育活動支出合計		6,008,644	6,201,214	6,237,294	6,556,440	6,815,824	
教育活動収支差額		634,180	504,723	525,082	520,504	480,566	
教育外収支	収支	受取利息	131,095	118,819	150,339	195,579	228,224
		教育活動外収入合計	131,095	118,819	150,339	195,579	228,224
		教育活動外支出合計	0	0	0	0	0
	教育活動外収支差額		131,095	118,819	150,339	195,579	228,224
経常収支差額		765,275	623,542	675,421	716,083	718,791	
特別収支	収入	資産売却差額	125	6,559	2,023	4,565	0
		その他の特別収入	54,273	50,712	36,983	59,481	73,146
		特別収入合計	54,398	57,271	39,006	64,046	73,146
	支出	資産処分差額	85,309	132,228	28,914	24,443	39,947
		特別支出合計	85,309	132,228	28,914	24,443	39,947
	特別収支差額		△ 30,911	△ 74,957	10,092	39,603	33,198
基本金組入前当年度収支差額		734,364	548,585	685,513	755,686	751,990	
基本金組入額		△ 100,000	△ 919,928	△ 3,808,903	△ 466,629	△ 586,254	
当年度収支差額		634,364	△ 371,343	△ 3,123,390	289,057	165,735	
前年度繰越収支差額		7,621,529	8,293,059	7,994,716	4,871,326	5,160,382	
基本金取崩額		37,166	73,000	0	0	0	
翌年度繰越収支差額		8,293,059	7,994,716	4,871,326	5,160,383	5,326,118	

主な財務比率(5カ年)

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	算式
事業活動収支計算書	学生生徒等納付金比率	86.5%	86.6%	85.2%	84.1%	85.5%	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$
	人件費比率	52.2%	53.1%	53.8%	52.7%	50.0%	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$
	教育研究経費比率	25.9%	26.2%	25.5%	27.3%	28.5%	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$
	経常収支差額比率	11.3%	9.1%	9.8%	9.8%	9.5%	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$
	事業活動収支差額比率	10.8%	8.0%	9.9%	10.3%	9.9%	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$

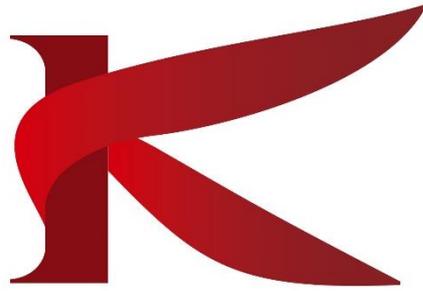
貸借対照表の推移(5カ年)

科目	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
固定資産	41,321,230	42,508,462	43,387,812	43,685,471	44,159,289
流動資産	6,969,991	6,447,082	6,421,254	6,837,389	7,105,180
資産の部合計	48,291,221	48,955,544	49,809,066	50,522,860	51,264,469
固定負債	1,143,862	1,096,355	1,126,066	1,137,248	1,143,774
流動負債	1,558,062	1,721,307	1,859,605	1,806,531	1,789,622
負債の部合計	2,701,924	2,817,662	2,985,671	2,943,779	2,933,397
基本金	37,296,238	38,143,166	41,952,069	42,418,699	43,004,953
繰越収支差額	8,293,059	7,994,716	4,871,326	5,160,382	5,326,118
純資産の部合計	45,589,297	46,137,882	46,823,395	47,579,081	48,331,071
負債及び純資産の部合計	48,291,221	48,955,544	49,809,066	50,522,860	51,264,469

主な財務比率(5カ年)

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	算式
貸借対照表	固定資産比率	85.6%	86.8%	87.1%	86.5%	86.1%	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$
	固定負債比率	2.4%	2.2%	2.3%	2.3%	2.2%	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総資産}}$
	流動比率	447.4%	374.5%	345.3%	378.5%	397.0%	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$
	純資産構成比率	94.4%	94.2%	94.0%	94.2%	94.3%	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資産}}$

(注) 純資産＝基本金＋繰越収支差額  
 総資産＝負債＋純資産



KONAN WOMEN'S  
ACADEMY